

黒川 道*: 日本産地衣類雑報 (3)**

Syo KUROKAWA*: Notulae miscellaneae Lichenum japonicum (3)**

(4) *Actinogyra Muehlenbergii* (Ach.) Schol. occurs in Japan.

資源科学研究所では、昨年に引続いて今夏も「下北半島の開発に関する総合的研究」が遂行され、この調査期間中に表題の地衣を採集したのでここに報告する。又、この地衣 *Actinogyra Muehlenbergii* (Ach.) Schol. に対して、朝比奈博士は「オオウラヒダイワタケ」の新和名を与えられたが、これは「大裏褶岩茸」の意である。

採集地は、青森県下北郡佐井村福浦にある縫道石山の頂上であつて、屋なお暗いヒノキアスナロの林をぬけて忽然として出るこの山の頂上は、かなり広い岩場になつて居り、晴れていれば津軽海峡をへだてて北海道を、平館海峡をへだてて津軽半島を一望に収められる地点だということである。この頂上の岩石上には見事な地衣群落が形成されて居り、*Actinogyra Muehlenbergii* が優占種で、この他に *Umbilicaria caroliniana*, *U. pennsylvanica*, *Parmelia shinanoana*, *Phyliscum japonicum* 等が生育していた。

扱て、オオウラヒダイワタケを含む *Actinogyra* という属は、子器の盤が一見すると

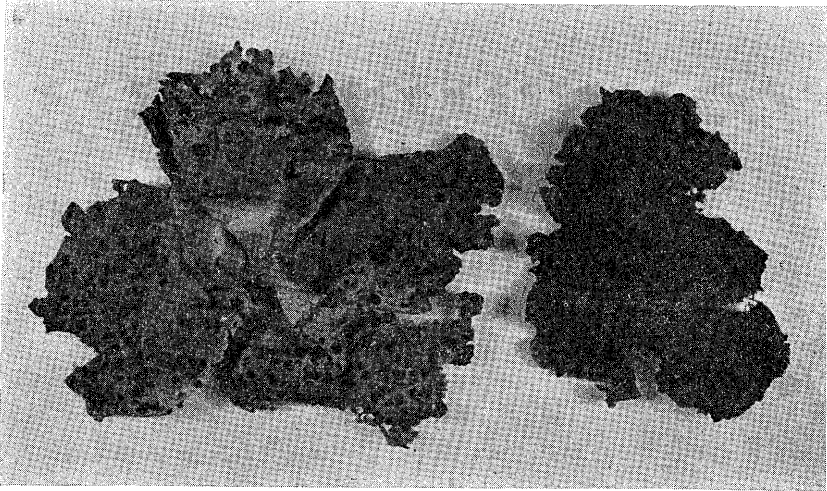


Fig. 8. *Actinogyra Muehlenbergii* (Ach.) Schol. from Mt. Nuido-iwa, Prov. Mutu. Left—Dorsal surface. Right—Ventral surface. ($\times 3/5$)

* 資源科学研究所, Research Institute for Natural Resources, Shinjuku, Tokyo.

** 資源科学研究所雑誌 第 796.

渦巻状を呈するが、その周囲が完全な縁で囲まれないという理由によつて Scholander¹⁾ が設定したものであり、後に Llano²⁾ よつて支持されている。筆者もこの両者の説に賛成し、表題の学名を採用することにした。この属に含められるものは世界中で3種報告されているが、日本では本種の記録が最初である。又、本種は、北米東部、特にアパラチア山脈沿いに多く発見されていて、1905年に Elenkin がシベリアで発見するまで北米特産の地衣とされていた。Llano²⁾ によれば、千島・樺太は勿論、アリューシャン・アラスカ・北米東部でも本種の産出が報告されていないのであるが、今回本州最北端の北下半島で発見されたことは、非常に注目すべきことであろう。

以下に本邦地衣フロラに新参の地衣の形態を略述することにした。

地衣体は岩石生、葉状、単葉性で硬くて脆い、ほぼ円形に拡がり、径 5~11 cm、辺縁不規則に欠刻し、欠刻は時に稍々深くなり且葉体が折れたまることがある。表面は平滑、灰黒褐色で中央部は往々にして灰緑褐色なり。裏面は黒褐色で全体にわたつて褶を生じ、褶は網目状に連なり、時にやや海綿状を呈し、又稀に鱗片状を呈することもあるが、根毛状にはならない。裏面中央に、太くて短い臍状体があり、これによつて基物に着生する。髓層は白色で、CaCl+紅色。

葉体は厚さ 300~450 μ 、表面の皮層は大部分透明であるが、外部に面した僅かの部分が褐色を帯びる。ゴニジア層は厚さ 25~35 μ 、髓層は厚さ 50~80 μ あり多量の結晶を含む。裏面の皮膚は透明で 200~400 μ 。この裏面の皮膚からこれと同じ組織より成る褶が伸び出す。

子器は葉体の周縁部に通常多致形成され、往々葉体の凹みの部位に位置し、ほぼ円形で中凸、径 4~5 mm に達し、表面渦巻状であるが周囲が完全な縁で囲まれることはない。今回採集した標本では成熟した孢子は未発見であるが、Llano²⁾ によれば、孢子は囊中に8個生じ、単室、無色、大きさは 24~31.2 \times 9.6~12 μ なり。

含有成分： ジロフォール酸

なお、この研究は文部省科学研究費によつて行われたものである。

Actinogyra Mühlenbergii (Ach.) Schol. was considered to be indigenous to North America until 1905, when Elenkin reported its occurrence in Siberia. In this summer (1956) the author collected a lot of good specimens of this species on Mt. Nuido-iwa, Simokita Peninsula, Prov. Mutu, a northernmost locality of Hondo, so that its distribution area was extended toward Japan. The identification was made by the comparison with Zahlbruckner's Lichenes rariores, no. 273.

1) Scholander: *Nyt Mag. Naturvid.* **75**: 28 (1934)

2) Llano: *Monogr. of Lich. Fam. Umbilicariaceae in the Western Hemisph.* (1950)